



# 会津医療センターから こんにちは！



【29】

漢方医学講座  
講師 齋藤 龍史

## 『西洋医学と漢方の邂逅』

**漢**方を志したきっかけを聞かれることが、しばしばあります。

私は漢方専門医であると同時に、日本神経学会所属の神経内科専門医でもあります。脳神経内科で扱う疾患には難治性のものが少なくなく、診断には至っても症状を十分に取り除けない場面にしばしば遭遇しますが、私が医師になった当時は今以上に治療手段が限られている状況でした。その頃20歳代の女性の主治医を務めることになりました。再発と寛解を繰り返すのが特徴の疾患で、運動障害や視覚障害に加え、重度の四肢のしびれ感に苦しめられていました。西洋医学的治療により諸症状の大半は改善しましたが、しびれのみが残ってしまいました。

ある日、先輩の医師が「“はちみじおうがん”という薬が有効な場合があるらしい」と教えてくれました。当時、私の周囲で漢方医学に通じた医師は決して多いとは言えず、少なくとも脳神経内科領域においては治療手段として漢方薬を考慮する機会はあまりありませんでした。皆その薬の名前すら初耳で、上司も私が「“はちみじおうがん”を使ってみたい」と申し出た際に不思議そうな表情を浮かべていたのを記憶しています。

さてこの薬は「八味地黄丸」と表記するのですが、投与開始から数週間で、難治と思われたしびれ感が半減したのです。漢方薬の使用にやや懐疑的な反応を示されていた患者さんも、想像以上の効果に驚いておられました。

この邂逅（かいこう）は私に強烈な印象を残し、治療手段として漢方を常に意識することとなりました。故に冒頭の質問を受けた際は、まずこのエピソードをお話するようにしています。

無論、これと同一の疾患あるいは同様の症状であっても残念ながらこの薬が有効ではない方もおられるのですが、使用候補となる漢方薬は他にも多々あります。また他疾患においても西洋医学的難治例に漢方が奏効する場合は少なくなく、皆様のお役に立てる機会があれば幸いです。

※ 令和元年9月29日付福島民報（会津7面）に掲載されましたが、正しい氏名表記は、上記のとおり「齋藤龍史」です。